

「働く」意味を考える

一株取引きを専業とする若者たち

須藤健志郎

本論文の目的は、若者の専業として投資をしているトレーダーが「働く」ことについてどのような考えを持っているか、どのような今後のビジョンを持っているのか調査し、明らかにすることがある。実際に専業トレーダーとして生活をしている人にインタビュー調査を実施し、働き方にフォーカスをして考察していく。

インタビュー調査は、元々の知人で専業トレーダーとして生活をしているNさんとKさんに話を聞いた。トレードを始めた理由、就職をして、民間企業に就くことも出来たはずなのになぜ専業トレーダーとして生活をしているのか、働くとは何か、コロナウイルスによる影響はなかったのか、どのような生活をしているのか、将来のビジョンなどについて聞いた。

インタビュー調査を通して明らかになったのは、2人の共通点として「働くことは時間を売る」ことだととらえていることである。「就職すること＝働くこと」があたりまえと考えられてきたが全く違う価値観があることが明らかになった。また、時間を大切にしていることがわかった。睡眠時間も一般の人よりも明らかに少なかった。それでも専業トレーダーとして不満の声はなく、収入の高さが関係していると言えるだろう。収入を活かして、会社や店を経営し、人とのつながりを作っていきたいというビジョンは共通していることが明らかになった。

さらにコロナウイルスの影響や「老後二千万円問題」などの社会問題から、若者たちが不満を抱き副業・兼業が増加していることが明らかになった。働き方が変わる今、収入源を一つにすることではなく、様々な副業・兼業をするべきだと筆者は考える。また、専業ではなくても副業・兼業としての需要は今後も高まるだろう。